

1. 日米株式と円/ドルの推移



(注)チャートは過去1年

	単位	2019/12/31	2020/6/30	2020/7/17	過去3年高値		過去3年安値	
		(前年末)	(前月末)	(前週末)	水準	日付	水準	日付
日経平均	円	23,656.62	22,288.14	22,696.42	24,448.07	2018/10/2	16,358.19	2020/3/19
NYダウ	ドル	28,538.44	25,812.88	26,671.95	29,568.57	2020/2/12	18,213.65	2020/3/23
円/ドル	円	108.61	107.93	107.02	114.73	2017/11/6	101.19	2020/3/9

過去3年高値・安値はザラ場ベース / 当社が信頼できると判断した情報に基づき作成

2. 日本株市場 先週の振り返り

～新型コロナウイルスの治療薬・ワクチン開発の進展や、それに伴う経済活動の活発化への期待から、上昇～

先週の日本株市場は、週間ベースで日経平均が+405.61円(+1.82%)、TOPIXが+38.65ポイント(+2.52%)となり、新型コロナウイルスの治療薬・ワクチン開発の進展や、それに伴う経済活動の活発化への期待から、上昇しました。業種別(東証33業種)でみると、鉱業、不動産業、鉄鋼、繊維製品などの32業種が上昇した一方、医薬品の1業種が下落しました。週初の13日は、米ギリアドサイエンス社のレムデシビルが新型コロナウイルスの重症患者に対して一定の効果がみられたとの報道を受け、経済活動が活発化するとの期待が高まり、大幅上昇して始まりしました。14日は、東京都を中心として国内における新型コロナウイルスの新規感染者数が増加傾向にあることが嫌気され、反落しました。15日、米モデルナ社がワクチン開発の進展を公表したことを好感し、上昇しました。その後週末にかけては、国内外における新型コロナウイルスの感染者数増加が止まらず、東京都の新規感染者数が2日連続で過去最多を更新したことなどを背景に軟調に推移しました。

3. 今週の主な予定

日程	曜日	国・地域	項目	前回
7月20日	Mon	日本	貿易収支	6月 ▲8,382億円
7月21日	Tue	日本	CPI(全国消費者物価指数)(除生鮮/前年比)	6月 ▲0.2%
7月22日	Wed	日本	内閣府、月例経済報告	7月
		米国	中古住宅販売件数	6月 3,910千件
7月23日	Thu	欧州	ユーロ圏消費者信頼感指数	7月 ▲14.7
		米国	景気先行指標総合指数	6月 +2.8%
		ユーロ圏製造業PMI(購買担当者景気指数)	7月 47.4	
7月24日	Fri	欧州	ユーロ圏サービス業PMI	7月 48.3
		米国	新築住宅販売件数	6月 676千件

決算発表予定 他	国内	決算発表 : 7/21 ディスコ、日本電産 7/22 オービック、サイバーエージェント
	海外	決算発表 : 7/20 IBM 7/21 テキサス・インスツルメンツ、コカ・コーラ、スナップオン、ロッキード・マーチン、フィリップ・モリス・インターナショナル、UBSグループ、ノバルティス 7/22 テスラ、バイオエン、マイクロソフト 7/23 ツイッター、イー・ティー・アンド・ティー、インテル、ダイムラー、STマイクロエレクトロニクス、ロシュ・ホールディング 7/24 アリソン・エクスプレス、ベライゾン・コミュニケーションズ

※ 当社が信頼できると判断した情報に基づき作成

4. 日本株市場 今週の見通し

～新型コロナウイルスの感染拡大への懸念が高まる中、4連休を控え弱含む展開～

今週の日本株市場は、新型コロナウイルスの感染拡大への懸念が高まる中、4連休を控え弱含む展開を予想しています。国内外で決算発表が本格化しますが、今週は好業績が期待されるハイテク関連銘柄の決算が予定されており、これら企業の良好な業績が確認されれば株価の下支えに働くことが見込まれます。一方、日米ともに新型コロナウイルスの新規感染者数の増加に歯止めがかからず、特に米国において更なる行動制限措置が取られれば景気回復への期待が剥落し、株価下落要因に働くこととみています。また、国内は23日から4連休となるため、連休中に新型コロナウイルスや米中関係など新たな悪材料が出る可能性に備えた利益確定売りも入りやすいとみています。その他の注目材料として、日本では20日の貿易収支、21日のCPI、米国では22日の中古住宅販売件数、24日の新築住宅販売件数、欧州では23日のユーロ圏消費者信頼感指数、24日のユーロ圏製造業・サービス業PMIなどが挙げられます。

